

中学2年2組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 青木佳美

【本時で目指す子どもの姿】

ウォールポケットを製作するに当たり、自分の願いにあった形の作品を作るために「型紙」を用いたしるし付けの良さを多面的に考え、実際に「型紙」を製作しようとする姿

【具体的な手だて】

自分の願いのこもったデザインを布に表現するには、どのようなしるし付けの方法を用いるとやりやすいか話し合う。その後、自分のデザインにそった「型紙」を作り、立体的に形にして作品を検討する。

1 題材名 生活を豊かにするための工夫をしよう ―ウォールポケット作り―

2 題材のねらい

ウォールポケット作りの計画、製作、評価といった一連の学習過程を進める中で、生活を豊かにしようという願いをもって取り組み、願いを形にするには製作の各段階でどのような製作方法が良いか多面的に考えながら計画的に製作することができる。

3 授業の構想

(1) 生徒は小学校の家庭科の授業において「生活に役立つ物の製作」を通し布を用いた作品を作っている。その際「製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画をたてる」ことや「手縫いや、ミシン縫いを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できる」という技術や能力を習得している。

2年生における家庭科の学習が始まる際、本学級の生徒にアンケート調査を行った。次のような結果が得られた。まず、裁縫が好きかどうかの質問に対し30人中4人が好き18人がどちらかというが好きという肯定的な回答で、7人がどちらかという苦手1人が苦手という回答であった。また、小学校の時26人がナップサックを製作し、12人がエプロンを製作している。バッグやランチョンマットを製作した生徒も数名いた。これらはキットを利用したものであった。キットを利用せずフェルト小物やブックカバー、雑巾、コースター、巾着、ポーチ、枕カバー、クッションなどさまざまな製作を体験している様子が見られた。しかし、中学校になってから布製品を家庭で製作した経験がある生徒は3名しかはおらず、型紙についても26人が使ったことがなかったり、そもそも型紙が何か分からなかったりする状態であった。

アンケート調査の結果から見て取れるように裁縫をすることに対する興味関心は高い。しかし、多くの小学校からの進学により学習内容が異なりまた、生活経験の違いにより製作技能に差が見られる。そこで本題材に入る前に、全員が基礎縫い練習と、基礎縫いを活用した手縫いの作品製作（ポケットティッシュカバー作り）を行い、基礎的な技術の定着を確立させる。本題材では生活を見つめ願いを持ち、その願いを形にするために各自がそれぞれにデザインを行う。そのため、しるし付け・裁断・縫製といった既習の製作技能をどのように用いるとより願いがかなう作品になるかデザインに合わせ各段階で試行錯誤するであろう。既習の製作技能の何を用いればよいか多面的に考え活用し製作することで、物づくりの楽しさを味わうとともに、

最適な方法を追求し、形にしようとする姿を期待したい。

(2) 本題材は自分の生活をより豊かにするという願いを持ち、計画を立ててウォールポケットを製作することで、生活の中の課題をとらえ解決する能力を育てることができると考え設定した。生活を見つめ「願いを持つ」そして、その「願い」を形にするにはどのような方法を用い製作すれば良いのか考えることにより「問い」との出会いが生まれる。「問い」を解決させるために計画を立てて製作を行う中で、作り方や製作手順を試行錯誤しながら進めることにより、本学園の技術・家庭科が目指している「問い」を主体的に追及する姿が育まれると考える。さらにこの「問い」を追求していくということは、製作の各工程において作り方にただ沿って製作するのではなく、既習の技能をいかに利用すべきかと多面的に考え実行することにより深まっていくと考える。

まずデザインは、自分の住まいにいかにかこのウォールポケットが役立つ物になるのかという必要感が感じられるものを考えさせたい。そして、イメージを形にするための手立てとして「型紙」と出合わせる。実物大の型紙を出来上がりのように組み立てることで具体的に出来上がりをイメージしやすくしまた、縫製の手順も確認することができる。組み立てに使った「型紙」を再びしるし付けに用い、正確なしるし付けを行いたい。さらに縫製へと進んでいくが、縫製では縫う手順や縫い方を既習の技能を基に考える。ここでの手立てとしては、班で手順や縫い方の選択が良いかどうか話し合う。完成した作品は家庭で使用し、使い心地を評価する。

さらに、ウォールポケットにどのような工夫を施すかを考える中で、普段何気なく過ごしている住空間について見つめ直すことができる。学習指導要領内容Cの(2)イ「快適な住まい方を工夫できる」との関連を図り、布製品の便利さや装飾性についても感じさせ、布製品が快適な住空間を創り出す役割をも担っていることに気づかせたい。製作の材料は同一のものを準備するが、リユースした布製品を部分的な材料として用いてもよいことにし、各家庭での布製品の処分についても関心を持たせたい。

この一連の製作を通し、ものづくりにおいてより良い方法を常に模索し最適解を導き出す意識を育てていきたい。

4 展開計画（全10時間 本時2/10）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇追求する子どもの姿
1	1	○ウォールポケットの計画 ・デザインを考える。	◇「願い」をもち自分の生活に役立つウォールポケットをデザインしようとする
	②	・しるし付けの方法を考える。「型紙」を用いることのよさに気づく。「型紙」を製作する。 ※「型紙」の段階でのデザインの変更が容易である。 ※間違えてしるし付けをする可能性が低い。	◇「型紙」について良さに気づき、「型紙」を作ることができる。
	3	・「型紙」の製作を通し、縫製の手順を考える。 ※縫製の手順が正しいかどうか班で検	◇班で学び合うことにより、より良い縫製の手順を考える。

		討する。	
4 5 6～8	○ウォールポケットの製作 ・「型紙」置き，裁断をする。 ・チャコペーパーを用いしるし付けを行う。 ・ミシンあるいは手縫いにより縫製を行う。		◇既習の技能の中から最適な方法を用い製作する。
9	○振り返り ・家庭で使用し自己評価し学級で共有する。		◇自分の「願い」が満たされる作品になったかどうか評価する。

5 本時の学習

(1) ねらい

ウォールポケットを自分の思いの形にするため，しるし付けの方法を多面的に考えることで，「型紙」を用いることの良さに気付きながら，「型紙」を作成することができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
1. 前時に考えたデザインを確認する。 ・使う場所への工夫 ・ウォールポケットの形への工夫 ・材料の工夫	・生徒の計画，デザインにおいて工夫のみられる作品をみんなで見て共有できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「型紙」の良さを生かして，ウォールポケットの型紙を作成しよう。 </div>	
2. しるし付けの方法を多面的に考えることで，「型紙」の良さを認識する。 ・容易にデザインを変更することができる。 ・同じものを何個も作れる。 ・しるしの付け間違いが起こりにくい。	・小学校の時製作した布製品でのしるし付けと，中学2年になってから製作したポケットティッシュでのしるし付けとの違いを考えさせる。
3. 自分の作品に合わせて「型紙」を作る。 ・縫い代の始末に合わせた縫い代幅を入れておく。 ・型紙を立体にしなが，縫製の手順を確認する。	・まず見本を用い同じデザインのもので型紙を書く様子を確認する。 ・貼ってはがせる糊で型紙を立体的に作成しイメージをつかみやすくする。

4. 本時のふりかえりと次時の確認をする。

- ・「型紙」を用いることで作品のイメージが持ちやすくなった。
- ・「型紙」を作ることで縫製の手順が考えやすかった。
- ・次時は「型紙作り」の続きを行い「型紙」を完成させることと、製作の手順を班で確認し合うことを知る。

・ウォールポケットの製作全体を通し「計画・振り返り」のワークシートを用い見通しを持ちやすくする。

—— 評価の観点（技能） ——

型紙の良さに気付きながら、自分の「願い」に合わせた型紙を作ることができる。

【評価方法 ワークシート・発言・作品】